

北海道新聞

2025年
12月4日
木曜日

発行所
北海道新聞社

〒060-8711
札幌市中央区大通東4-1
電話 011-221-2111
www.hokkaido-np.co.jp



「女はみんなこうしたもの」
は、モーツァルトのオペラ「コ
ジ・ファン・トゥッテ」の邦訳。
この題名に象徴されるさまざま
な愛のかたちを名作イタリア・
オペラを通して、岩田達宗の工夫
ロッシーニの歌劇「ラ・チェネレン
トラ」の一場面を演じる北海道二期
会の歌手(大石佑希撮影)

音楽会

北海道二期会・煌めくオペラ 女はみんなこうしたもの

ホールに飛び交う圧巻の重唱

を凝らした演出により北海道二期会が2日間公演。その初日を聴いた。

4タイトルのオペラの中で四重唱が3曲歌われた。その中でブッチーニ「ラ・ボエーム」の第3幕で歌われる相原智佳(ミミ)、岡崎正治(ロドルフォ)、亀谷泰子(ムゼッタ)、今野博之(マルチェッロ)の2組の恋人たちによる重唱は、ロドルフォたちの「愛と献身」とマルチェッロたちの「愛ゆえの争い」が、迫真に満ちた歌唱・演技で見事に交差し、圧巻のステージを見せた。

二重唱ではドニゼッティ「愛の妙薬」で増田寧子の勝ち気ながら可憐さもあるアディーナと岡崎の快活なネモリーノによるベテラン同士の奥行きのある声の重なりが印象的。童話シンデレラをもとにしたロッシーニ「ラ・チェネレントラ」での土

谷香織と青山壮汰の運命的出会いを感じさせるコロラトゥーラ(技巧的な装飾を伴った歌唱)も秀逸。さらにベルディ「ファルスタフ」の矢野愛実と川村

春貴による恋人同士の初々しい掛け合いに好感が持てた。

独唱では「ラ・チェネレントラ」で土谷が艶のあるソプラノを聴かせ、「ファルスタフ」では演技力抜群の岡元敦司が感情をあらわにする歌唱で白眉。繊細で粒立ちのよい音色を放った竹田圭吾と深い響きで安定したアンサンブルを聴かせた吉泉善太のピアノ伴奏がステージを力強く推進させていた。

今回は字幕を出さず、駒ヶ嶺ゆかりが曲間に登場し、情感を込めた語り口で各曲の物語を伝えた。そのため歌手に集中して聴くことはできたが、劇中暗転時に声だけの語りの方がすっきりした展開になっただろう。岩田がプレトークで「オペラにマイクは不要」と述べたように、客席を含めホール全体を使って生の歌声が飛び交う立体感が十分に味わえた。

(八木幸三・札幌音楽家協議会会長)

◇11月13、14日、札幌・キタラ小ホール(13日の演奏を聴いて)